

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0172000655		
法人名	総合ケアサービス有限会社		
事業所名	グループホームひまわりの丘(ユニット:ひまわり)		
所在地	小樽市緑1丁目28番8号		
自己評価作成日	平成28年2月10日	評価結果市町村受理日	平成28年3月26日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokensaku.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_2015_022_kani=true&JigyosyoCd=0172000655-00&PrefCd=01&VersionCd=022
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ニッポン・アクティブライフ・クラブ		
所在地	江別市大麻新町14-9 ナルク江別内		
訪問調査日	平成28年2月26日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

坂の町小樽にあり、有名な『地獄坂』を登りきったところにあるグループホームひまわりの丘です。住宅街の一角にあり、一見「どこにあるんだろう」と思うほど、隠れ家的なホームになっています。そこには利用者様18名の生活の場があり、一人ひとりの意志や尊厳を大切にし、楽しく安らぎのある生活が送れるよう共に支えています。職員は30代40代の職員が多く、活気に満ち溢れたホームです。利用者様と家族のような関係を築いていきたいと強く想って日々行っています。また、地域の特性を活かし、小樽商科大学の学生アルバイトを雇用したり、地域の幼稚園との交流、町内会行事への参加を通して地域に根付いていきたいと強く想っています。認知症になっても安心して暮らせる社会、認知症になってもその人らしく地域の一人として過ごせる社会の実現を目指し、ひまわりの丘職員全員で取り組んでいます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

歴史と坂の町、小樽市の小樽商科大学がある文教地区に近い高台の住宅街に位置し、バス等の交通の便も良い。北東の眺めは、小樽港を望み、晴れた日には遠くに、冠雪の山々を望むことが出来、季節の移り変わりを感じることができる。木造2階建て2ユニットのホームは、木のぬくもりがあり、居間、食堂は一体的で、自分の家と同じように物を置くなどして家庭的な雰囲気、行事の写真、生花、お雛様などを飾り、利用者は体操をしたり、歌を歌ったり、会話をするなど思い思いに過ごしている。管理者を中心に全員有資格者で、職員の年齢構成は30歳代から40歳代が主流で若々しくて明るく、利用者と同じ目線で、声かけして接する姿勢は、清々しく、誠意を持って取り組む姿勢、意気込みが感じられる。町内会に加入し、職員は地域の一人として、地域の祭りの手伝いをし、神輿が事業所に立ち寄り、利用者は出店に出かけたりして地域と交流している。事業所の夏祭りなどの行事には地域住民が参加して交流している。又、幼稚園児が来訪し、歌を歌ったり遊戯をしたりして交流している。法人は介護職員養成校を運営し、研修会を開催するなど専門性の高いケアが、利用者の自立を支え、楽しみのある毎日となるよう取り組んでいる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果		項目	取り組みの成果	
	○	↓該当するものに○印		○	↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる(参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている(参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある(参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている(参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている(参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている(参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている(参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働けている(参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている(参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている(参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている(参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I.理念に基づく運営						
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	各フロアに、施設理念を提示し、職員が都度確認出来るようにしています。また、研修会・フロア会議等の中で、尊厳や認知症についての理解を深め、常に応用できるようにしています。	「私たちは、ひまわりが太陽を向くように、いつも一人ひとりと向き合います」などの事業所理念を各ユニットに掲示し、フロア会議、内部研修で職員が共有し、日々実践につなげている。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域行事には極力参加しています。しかし、交流自体は多くないため、日常的に挨拶をしっかりと行っていたり、ホーム内での行事参加の案内を出す等の取り組みは行っています。	町内会に加入して、地域の一員として職員は祭りの手伝い、お神輿が事業所に立ち寄り、幼稚園児が来訪して交流している。夏祭りなどの事業所行事で地域住民と交流して地域との関係を深めるよう努めている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	そのような取り組みは現在行っていないが、今年度中に町内会や市民向けの講演会を行う予定です。			
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	概ね2ヶ月に一度運営推進会議を実施し、ご家族の方や町内会の方、地域包括支援センターの方々に参加をしていただき、そこでの意見等を参考にし、当ホームのサービス向上に努めている。	家族、地域住民、地域包括支援センター職員などが出席して年6回開催している。運営状況、行事などを報告し、意見や助言、地域の情報を得て、サービス向上に活かしている。出席者から行事への希望、除雪についての希望がある。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	確認事項やわからない事がある際は、市の担当者へ連絡をして指導を仰いでいます。また、当法人で主催する研修会等の参加の声を掛けさせていただいています。	市担当者には、利用者の状況などを報告し、疑問点などについて指導、情報交換を得ている。地域包括支援センターの担当者とは、運営推進会議出席時に入居者の支援、運営に関する様々な問題について情報交換を行い、指導や助言を得ている。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	定期的な研修会を開催することで、職員に対して日常的に意識してもらう取り組みや啓発活動に取り組んでいます。	身体拘束廃止委員会を設置して、介護職員養成校から講師を招聘し「身体拘束に関する」研修を行って、全職員が共通理解するよう取り組んで、身体拘束をしないケアに努めている。玄関にチャイムを設置し、夜間のみ防犯のため施錠している。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	リスクマネジメント委員会を設置しており、委員会を中心に虐待防止に努めている。また、職員間でお互いに注意し合える関係性作りも取り組んでいます。			

グループホームひまわりの丘(ユニット:ひまわり)

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	後見人制度を利用されている利用者様は数名いるが、制度について学ぶ機会はもてていないです。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	利用者様ご家族様に対し、契約書や重要事項説明書の内容に沿って説明をしています。また、不明な点等について随時説明を行っています。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご本人様からは都度意見の聞き取りを行っており、ご家族様に対しては面会時または電話連絡で意見を伺っている。意見のあった際は、カンファレンスや引継ぎの場で検討し、出来るだけ早急に対応が出来る体制をとっています。	利用者の意見、要望は日々の会話などから把握に努め、家族とは来訪された機会、電話、介護計画更新時に意見、要望を聞いて職員間で話し合い検討して、共通理解を得て運営に反映させている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	頻度は定めていないが、日常的に職員が話しやすい(意見の言いやすい)関係(環境)を構築するよう心掛けています。また、そこで出た意見や思いを反映できるよう努めています。	管理者は職員が意見を言いやすい雰囲気や日頃から作り、休憩室での会話、個別面談、職員会議で意見、要望を話し合い検討して運営に反映させている。待遇改善について職員の意見が反映されている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	6ヶ月に1度個別面談を行い、自己目標の設定や自己評価の機会を設けています。その中で出た、目標の達成できるような職場環境の整備に努めています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	ホーム内外の研修会に参加を促し、出来るだけ多くの職員が出席できるようにしています。また、個々の職員に内部研修担当をもらい、そこで知識の向上やプレゼン力向上などの取り組みをしています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市内のグループホーム相互訪問研修や実践者研修実習生の受け入れなどをして情報交換を行っています。互いにサービスの質の向上が出来るよう努めています。		

グループホームひまわりの丘(ユニット:ひまわり)

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用開始当初においては、職員が積極的に関わりを持ち、ご本人の表情や言動に着目し、不安な様子や困っていることなどに早期に気づけるように心がけています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居してからのご本人の様子や、要望や思いなどをご家族に伝え、情報を共有するように努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居の相談や、ホーム見学に来られた際は、現状を出来るだけ多く聞き取り、在宅での生活が可能であったり、経済的に難しい状況であれば、他サービスについても説明をしています。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日常生活において、ご本人の残存能力や意欲に応じて、できることはできるだけご自分で行えるように、必要に応じて介助や支援を行っている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	敬老会や月間行事の際に、ご家族様にも参加案内をして、利用者様と係わる機会作りに努めています。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入所前に通われていた美容室や病院等馴染みの関係性を尊重し、入所後も継続して通えるように支援している。また、家族様はもちろん友人や近所の方と行き来できる環境づくりを心掛けている。	近隣地域からの利用者が多いこともあり、買物、理・美容、お寺、教会など馴染みの関係が途切れないよう支援している。知人、友人が来訪した場合には、居室でゆっくり話が出来るよう支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず、利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	個々の生活の場として、楽しく過ごしていけるように、利用者様同士の関わりを尊重し、円滑にコミュニケーションが図れるように支援しています。		

グループホームひまわりの丘(ユニット:ひまわり)

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	いつでもホームに来所してもらえるように声を掛け、ご本人やご家族を出来る限り支援できるように努めています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常生活や入浴時、または受診時等にご本人の意向や想いの聞き取りを行っている。困難な場合には家族様や友人の方から以前の様子や想い等を伺っている。	日々の会話、表情、家族の情報、特に開放感のある入浴時間等を利用して希望や意向の把握に努め、把握した希望、意向を職員で共有して、思いや意向に添うよう努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時はもちろん入所後においても、ご本人様やご家族様、友人の方等から聞き取りを行っている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日常生活において、利用者様の言動や表情などを適宜観察し介護記録に記録して、それをもとに定期的にあセスメントを行っている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケアプラン更新時、または必要に応じカンファレンスやサービス担当者会議を開催し、ご本人やご家族様、職員の意向やアイデアを取り入れ次回のケアプランの作成に反映できるように努めている。	利用者、家族の意向を反映させ、担当者がモニタリングを行い、ケアマネが全体プランを作成し、サービス担当者会議、全体会議で協議して、短期4ヶ月、長期6ヶ月から1年毎に現状に即した介護計画を作成し家族の確認印を得ている。状況に変化があればその都度見直すこととしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	認知症ケア記録「KCIS」のSOAP形式で記録しており、適宜アセスメントやモニタリングを行い、できる限り見直しできるように努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	現在はそのような機会がないため特に取り組んでいないが、今後そのようなニーズがあった際に取り組んでいこうと思っています。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	主に町内会が主になっているが、利用者様が安心して町内へ出かけたり、地域の方達と交流がもてるよう町内会と連携を図っていきたく思います。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人様やご家族様の希望があれば、入所前からのかかりつけ医や希望の病院へ受診できるように支援しています。	本人、家族の希望に添ったかかりつけ医に受診できるよう支援している。通院には職員が付き添い利用者の日々の状況を説明している。結果について、変化があればその都度、家族に報告している。	

グループホームひまわりの丘(ユニット:ひまわり)

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	申し送り時は、看護師も同席し日々の状態変化を報告し、必要に応じて医療機関等への報告を行っています。また、血圧測定などの日常の体調管理も看護師が主になり行っています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には、心身の状態の報告はもちろん、ホームでの生活の事や、ご本人の嗜好について事細かく伝えていきます。また、面会の回数も増やし都度状態の確認を行っています。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	現在は、終末期ケアの実施はないが、ご本人やご家族の希望、医師の判断により、ご本人やご家族に十分な説明を行ったうえで、できる限りの支援に取り組んでいます。	入居時に「重度化した場合の対応に係る指針」に基づき本人、家族に説明し確認を得ている。重度化が認められた段階で、本人、家族、主治医と協議して、本人の病状、本人・家族の意向などを考慮し、医療機関に入院、看取り等、希望に添えるよう支援することとしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	消防で開催している、普通救命講習に全職員が参加することで緊急時の対応が行えるよう取り組んでいます。また、緊急連絡先を明確化にしておき、適切な対応が取れるよう取り組んでいます。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回、避難訓練を実施しており、災害時に避難が円滑に行える取組を行っています。地域の方にも避難訓練の参加を促し、十分ではないが、協力体制を構築しています。	避難訓練は、年2回(日中想定、夜間想定各1回)消防署の指導、地域住民に参加を促し実施している。今回は子供たちが避難訓練に参加している。地震などによる家具などの転倒防止の安全対策を行っている。	・災害の際に地域の協力が得られるよう、運営推進会議や町内会を通じて、地域住民の協力体制を構築することを期待する。 ・火災、自然災害(地震等)など災害別一時避難場所を指定し、通信網が破壊された場合を想定して、予め家族等へ通知することを期待する。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者様個々の生活歴や性別、職業などに応じて、敬語や方言などを使い分けて対応している。	本人の気持ちを大切に、利用者と同じ目線で、言葉づかいに気をつけ、利用者の尊厳、プライバシーを守ることの重要性は、全職員が認識している。職員間でお互いに注意し合える関係性作りにも取り組んでいる。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご本人様からなんらかの意思表示がありそうな場合には、ゆっくりと話をする時間を設け、出来る限り思いや希望を伺い、自己決定できるように支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	全利用者様に対してできてはいないものの、出来る限り個々のペースに合わせた生活ができるように支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	起床時や入浴時など、その方の希望を伺いながら支援している。		

グループホームひまわりの丘(ユニット:ひまわり)

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の味付けや配膳方法などに配慮して、楽しみながら食事ができるように支援しています。また利用者様にも出来る限り参加していただいています。	献立は業者に委託し、調理は職員と能力に合わせて利用者が行っている。月2回「食べたいメニューを食べる日」を設けている。季節の秋刀魚、ぶどう、畑で採れたトマト、かぼちゃなどが食卓を飾り職員と一緒に食事を楽しんでいる。誕生会にはケーキなどの行事食、外食は、その都度希望により決めている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養計算は配食業者の献立を元に把握しおり、水分や摂取方法は、個々の嚥下状態や口腔状態を考慮して、トロミ等を使用しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、自立の方は見守りや声掛け、その他の方は介助や声掛けにて行っています。また、往診の歯科医より口腔ケアの指導も適宜受けています。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄間隔の把握を行い、トイレへの声掛けを行うタイミングを考慮し、できる限りトイレで排泄できるように支援しています。	排泄チェック表、表情、態度などから把握し、適時にさりげなくトイレに誘導し、排泄の自立に努めている。誘導支援を必要としている利用者は18人中6人と比較的少ない。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	ももとの体質や運動不足などが原因の利用者様には、ラジオ体操の実施や歩行運動、また起床時に冷たい牛乳を提供したり、食物繊維の多い食べ物を提供するなどの工夫を行っています。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	現在は時間帯及び曜日の指定など利用者様の要望などは特にないが、職員が決めた時間帯での入浴となっており、今後個々の希望の聞き取りを等も含めて検討中。	週2回の入浴を基本とし、希望があれば毎日の入浴、好みの入浴剤を使用して入浴を楽しむことができる。入浴を拒否する利用者はいない。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	できる限り、ご自分の意志で休養ができるように支援しています。また、その際は物音や足音など環境にも配慮しています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬マニュアルを遵守し、個々の状態に合わせた支援を行っている。薬の内容についてはKCI Sの服薬情報や等を確認している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	レクリエーションの機会をできるだけ多く提供し、生活のメリハリをつけ、楽しく生活できるように支援しています。		

グループホームひまわりの丘(ユニット:ひまわり)

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	当日の希望を即日に対応はできていないものの、日程調整を行い、出来る限り近日常に外出できるように努めている。	散歩、水族館、運河公園、花見、野球観戦、ドライブなどに出かけて日常の生活に潤いと変化を提供するよう工夫している。家族と一緒に買い物や食事、外泊で外出している。閑静な住宅街であるが、坂が多いこともあり散策は難しい利用者もいる。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	利用者様個々の経済状況を把握し、その範囲内で使用できるように支援しています、また、お金の所持を希望される方には、数千円の所持をさせていただいています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人ご家族や知人友人から希望のあった際には、電話もしくは手紙のやり取りが出来るよう支援しています。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	テレビの音量や、電気の明暗、温度・湿度などは時間帯や季節に応じて調整している。また、トイレなどは適宜仕切りのドアを閉め、匂いがリビングへ流れないように配慮している。	居間兼食堂は、日当たりも良く温度・湿度も適度に調整され、行事の写真、生花、季節感を活かしたお雛様などを飾り居心地よく過ごせるよう工夫している。利用者は体操をしたり、歌を歌ったり、会話をするなど思い思いに過ごしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居室やリビングなど個々のその時の状態に合わせて、居たい場所にいられるように支援しています。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かし、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室内の家具はご本人が使い慣れた物を使用して頂き、落ち着いた空間となるよう支援しています。	使い慣れ親しんだベッド、テレビ、筆筒などを持ち込み、家族や、行事の写真を飾り、居心地よく過ごせるよう工夫している。仏壇を配置している利用者もいる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	共有部分は、整理整頓を出来るだけ心がけ、利用者様が混乱しないように配慮し、居室には個々の名札を付け迷わないようにしています。廊下は手すりを設置し、移動が安楽にできるように配慮しています。		